パラグアイ国イタプア県
フラム移住地

営農計画書

昭和32年4月1日

日本海外協会連合会

JICA
LIBRARY

国際協力事業団	
受入月日 '84. 8. 20	708
	81
登録No. 13083	EA

まえがき

1. この営農計画書は、農林省拓植課、南方技官が本年ノ月中旬より約2週間に亘って現地に駐在し、現地調査をなし最近の物価及び既入植者の営農成績を参考にして作成したものである。

2. 入植の最適期は7、8月の農年の始めであり、この計画もその仮定にもとづいて樹ててある。

3. この計画は農家が順調な拡大再生産をとげるための必要最低限と思われる投資を前提としており、資金繰りの制約をする諸条件は第ノ5表の附註により、積極的に解決する必要がある。

4. なおフラム地区に隣接するチヤベス植民地の既入植者の営農実績を調査した結果は、概して思わしくない。その原因は主として営農指導の不充分から山焼き時期の失敗、陸稲の播付時期の失敗等があげられるが、これらの先輩入植者の失敗から教えられることを拾いあげると次の様な事柄である。

(1) 山焼きの時期やその年にやる面積は先輩の経験談や忠告に耳を傾け自分のこなしうる範囲で着実に進めて行くこと。

(2) 山代りの時期についても同様、適期を待ち、山焼きに一番適する時を逸ばねばならない。

(3) 営農方針としては、自分の喰うものを作ることが第一である。この地帯は水利が不便で夏の旱魃の恐れもある。陸稲の栽培が殆どなされない。降雨量は必ずしも豊々足つておらず陸稲を全くすてるには少し問題があるが、入植者は食生活を米食本位から雑食本位にきりかえる必要がある。

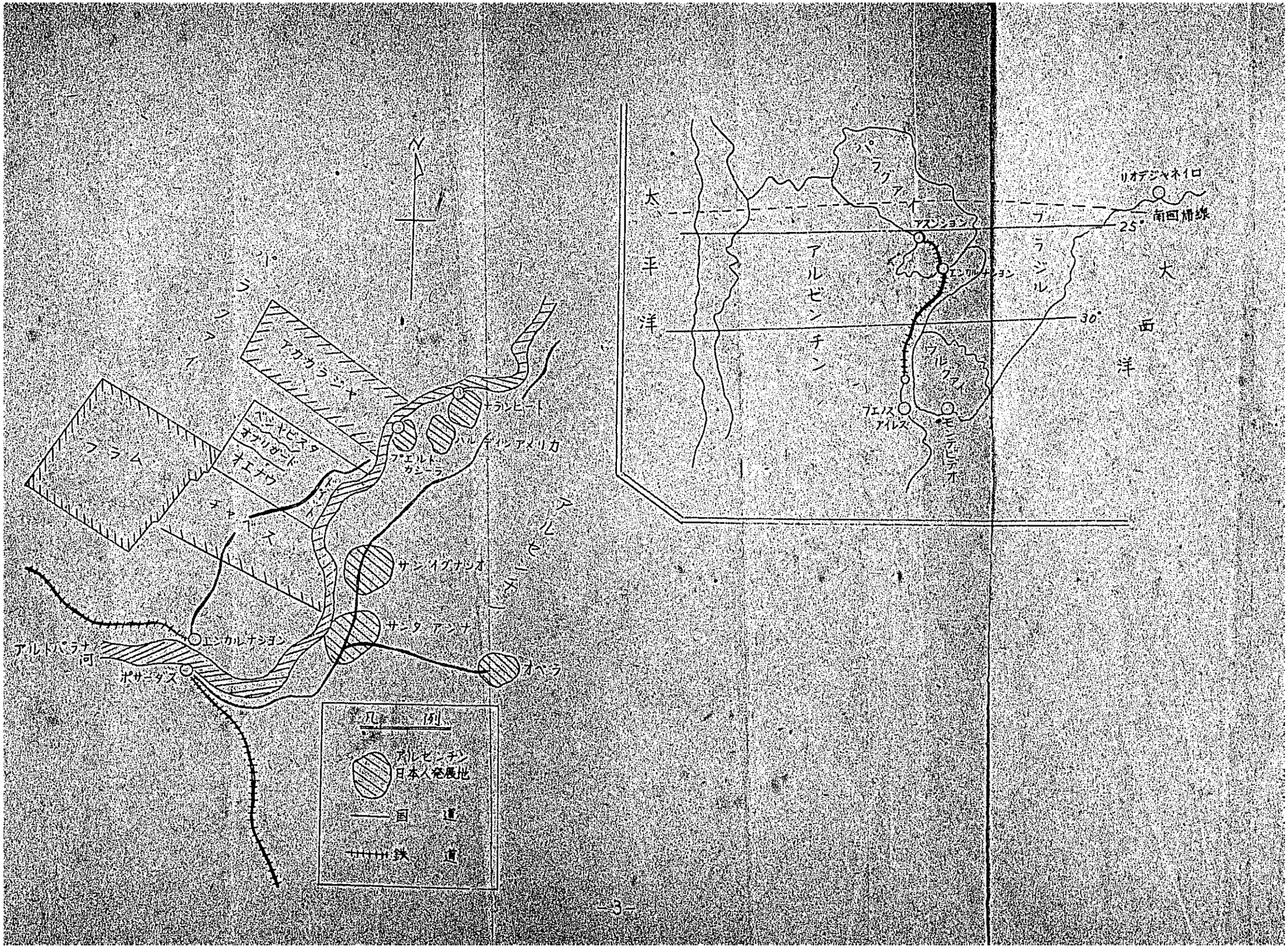
(4) 次に売れるものを重点的に作ると共に、売れるように販路を求めることが大切である。現在、エンカルナシオンで確実に売れる農産物は落花生、小麦、棉である。落花生は第一年目は木の細根が

JICA LIBRARY
1034623[7]

多く，折角作つて心収穫しきれずに土の中え残すのが多いから第二年目からにすべきである．陸は第一年目は山焼きの都合からどうしても時期を失するのでこれ必第二年目からになる．小麦は入植者の福箱であつて，これによつて現金収入の大部分をあげているのが現状である．但し，この有望な小麦も動力脱穀機なくしては一戸当ノ～ノ5haに以上作れないので発動機つきの脱穀機を5戸にノ台位の割りで買うようにし初年度の小麦生産を推進すべきである．新入植者は是非これを携行してほしい．

(5) 玉蜀黍，豆類等の雑穀及びいも類は売れ行きが危険である．従つてこれ等は家畜の飼料とするよう家畜の飼育も併せ行うべきである．同時に油料作物からの搾油等も必要である．

(6) 永年作物．マテ茶，油桐，果樹類はできるだけ早く植付け，整備することが必要である．

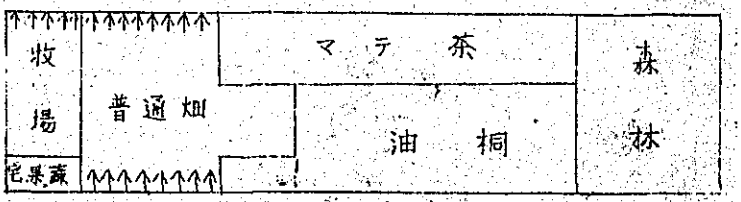

N
太平洋
パラグアイ
アスンション
リオデジャネイロ
南回帰線
25°
30°
アルゼンチン
ブラジル
大西洋
エンカルナシオン
ウルグアイ
フェルナンデス
アイレス
モンテビデオ
ボリビア
ペルー
ブラジル
アマゾン
ナヤウ
ベニ
マデイラ
トランピート
フエルトカシーラ
ラパス
アンデス山脈
サンイグナシオ
サンタアンナ
オベラ
エンカルナシオン
アルトパラナ河
ポサーダス
凡例
アルゼンチン日本人発展地
国道
鉄道

1. 家族構成　　実人員　5名　　稼働人員　3名

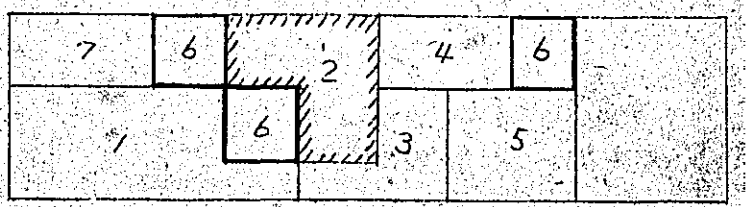
2. 土　地　　25町歩　　完成時　耕地　17.5町
　　牧場　2.0町
　　宅地　0.5町
　　森林　5.0町

3. 家　畜　完成時　鶏70羽，豚30頭，馬3頭，乳牛2頭

4. 完成時の農場図
（普通畑のために防風林を設置する．）

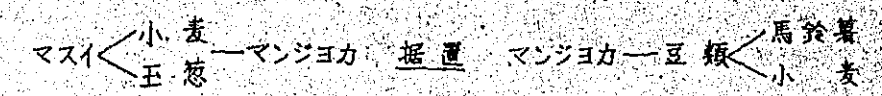


5. 年次別開墾進度
　　オ一年　5町歩
　　オ二年　3　〃
　　オ三年　2　〃
　　オ四年　2　〃
　　オ五年　3　〃
　　オ六年　3　〃
　　オ七年　2　〃



ノ1年目は宅地及びその附近の普通畑を主とし，2年目以降は永年生作物畑を主として開拓する．永年生作物畑は，2～3年間作ができるから努めて利用する．

6. 普通畑輪作形態（普通畑6.0町を，1区画1.5町の4区画に区分する）



7. 作物別 町/ha 当り収量及び販売単価

区分		ha当収量	販売単価(庭先渡)	備考
マイス		1,500 kg	3.0 俵	1957年2月の相場ひら市場までの運賃として1kg当り0.5俵を差引き庭先価格とした。（実際は開拓地の組合倉庫渡しとなる。） マテ茶の価格は，加工賃を差し引いて乾燥葉の重量に応じて支払われるものとする。
綿		500 〃	11.0	
豆		800 〃	5.5	
落花生		800 〃	8.0	
マンジョカ	1年生	10,000 〃	1.0	
	2年生	20,000 〃		
玉葱		3,000 〃	5.0	
小麦		1,300	7.5	
馬鈴薯		5,000	10.0	
油桐（ムキ実）	4年生	150	4.5	
	5 〃	750		
	6 〃	1,500		
	成木	2,000		
マテ茶（乾燥葉）	5年生	2,000	5.0	
	6年生	2,800		
	7年生	3,400		
	成木	4,000		

8. 年次別作物別作付面積（年次は 7月から翌年6月までを農年次の期間とする。

単位 ha

区分			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
短期作物	表作	マイス	3	3	3	3	3	3	3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
		綿	−	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	−	−	−	−	−	−
		ポロット，大豆	1.5	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1
		落花生	−	−	−	1	1	1	1	1	1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
		新マンジョカ(才1年)	−	2	2	2	2	2	2	2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
		旧マンジョカ(才2年)	−	−	1	2	2	2	2	2	2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
	裏作	玉葱	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
		小麦	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5
		馬鈴薯	−	−	−	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0	0.5	0.5	0.5
永年生作物		油桐 1年生	−	0.5	1	3	−	3								
		2年生	−	−	0.5	1	3	−	3							
		3年生	−	−	−	0.5	1	3	−	3						
		4年生	−	−	−	−	0.5	1	3	−	3					
		5年生	−	−	−	−	−	0.5	1	3	−	3				
		6年生	−	−	−	−	−	−	0.5	1	3	−	3			
		成木	−	−	−	−	−	−	−	0.5	1.5	4.5	4.5	7.5	7.5	7.5
		マテ茶 1年生	−	−	2	−	2	−	1				−			
		2年生	−	−	−	2	−	2	−	1						
		3年生	−	−	−	−	2	−	2	−	1					
		4年生	−	−	−	−	−	2	−	2	−	1				
		5年生	−	−	−	−	−	−	2	−	2	−	1			
		6年生	−	−	−	−	−	−	−	2	−	2	−	1		
		7年生	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	2	−	1	
		8年生	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	2	4	4	5

裏作は前の年度に、永年作は翌年度に記載した。

9. 年次別作物収量

(単位 瓩)

年次		1	2	3	4	5
マイス	総収量	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
	種子飼料	400	850	1,650	2,000	2,250
	販売量	4,100	3,650	2,850	2,500	2,250
綿	総収量		750	750	500	500
豆	総収量(除種子)	1,200	800	800	1,600	1,600
落花生	総収量(除種子)	—	—	—	800	800
マンジョカ	総生産	—	10,000	20,000	40,000	40,000
	飼料	—	6,500	16,000	21,000	28,000
	販売量	—	3,500	4,000	19,000	12,000
玉葱	総生産	—	1,500	1,500	1,500	1,500
小麦	総生産	—	2,600	3,900	3,900	3,900
	食糧種子	—	750	750	750	750
	販売量	—	1,850	3,150	3,150	3,150
馬鈴薯	総生産	—	—	—	—	2,500
	種薯	—	—	—	—	500
	販売量	—	—	—	—	2,000
油桐	4年生	—	—	—	—	75
	5年生	—	—	—	—	—
	6年生	—	—	—	—	—
	成木	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	75
マテ茶	5年生	※	※	※	※	※
	6年生	—	—	—	—	—
	7年生	—	—	—	—	—
	成木	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	—

馬鈴薯，玉葱，小麦の収穫は翌年度にわたるので，播種の翌年度に計上した．

6	7	8	9	10	11	12	13	14
4,500	4,500	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250
2,250	2,150	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250
2,250	2,350	—	—	—	—	—	—	—
500	500	500	—	—	—	—	—	—
1,600	1,600	1,600	800	800	800	800	800	800
800	800	800	800	400	400	400	400	400
40,000	40,000	40,000	40,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
28,000	28,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
12,000	12,000	10,000	10,000	—	—	—	—	—
1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
3,900	3,900	3,900	3,900	3,250	1,950	1,950	1,950	1,950
750	750	750	750	750	750	750	750	750
3,150	3,150	3,150	3,150	2,500	1,200	1,200	1,200	1,200
2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	5,000	5,000	5,000	5,000
500	500	500	500	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
2,000	2,000	2,000	2,000	1,500	4,000	4,000	4,000	4,000
150	450	—	450	—	—	—	—	—
375	750	2,250	—	2,250	—	—	—	—
—	750	1,500	4,500	—	4,500	—	—	—
—	—	1,000	3,000	9,000	9,000	15,000	15,000	15,000
525	1,950	4,750	7,950	11,250	13,500	15,000	15,000	15,000
—	4,000	—	4,000	—	2,000	—	—	—
—	—	5,600	—	5,600	—	2,800	—	—
—	—	—	6,800	—	6,800	—	3,400	—
—	—	—	—	8,000	8,000	16,000	16,000	20,000
—	4,000	5,600	10,800	13,600	16,800	18,800	19,400	20,000

10. 家畜導入，増殖及び生産計画

年次	鶏			豚			馬			乳牛			新規調達頭数合計
	調達	現在数	卵販売数	調達	現在数	販売数	調達	現在数	販売数	調達	現在数	販売数	
1	10羽 500円	10	／	仔1対 2,000円	仔1対	／	／	／	／	／	／	／	2,500円
2	／	30	／	／	成2頭 仔5頭	／	成1頭 3,000円	成1	／	／	／	／	3,000
3	／	60	500	／	成4 仔10	／	仔2頭 4,000円	成1 仔2	／	中1頭 3,500円	中1	／	7,500
4	／	70	2,000	／	成8 仔15	4頭 (各100kg)	／	成3	／	／	成1	／	／
5	／	70	3,000	／	成10 仔20	8 (〃)	／	成3	／	／	成1 仔1	／	／
6	／	70	4,000	／	成10 仔20	10 (〃)	以下同じ			／	成1 中1	／	／
7	／	70	5,000	／	成10 仔20	20 (〃)				／	成2	／	／
8	／	70	6,000	／	成10 仔20	20 (〃)				／	成2 仔1	仔1	／
9	以下同じ		@15円	以下同じ		1kg当り 18円				以下同じ		@2000円	
10													

購入以外の数の増加は飼育中の繁殖をさす。

家畜飼料自給計画

年次	鶏	豚		馬		乳牛		合計	
	マイス	マイス	マンジョカ	マイス	マンジョカ	マイス	マンジョカ	マイス	マンジョカ
	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
1	150	50	800	—	—	—	—	200	800
2	450	100	4.000	100	2,500	—	—	650	6.500
3	900	200	8.000	200	6.000	150	2.000	1.450	16.000
4	1.050	300	12.000	300	7.000	150	2.000	1.800	21.000
5	1.050	400	17.000	300	7.000	300	4.000	2.050	28.000
6	1.050	400	17.000	300	7.000	300	4.000	2.050	28.000
7	1.050	400	17.000	300	7.000	300	4.000	2.050	28.000
8	1.050	400	17.000	300	7.000	400	6.000	2.150	30.000
9			以下同じ						

豆類の茎稈を補充飼料として与えるものとする.

11. 建物整備計画

年次	建物名及び価格	償却年数	年間償却額	新規投資額（償却積立を控除）
1	小屋（住宅） 5,000所 井戸 3,000	5年 50	1,000円 60	8,000円
2	倉庫 7,000 鶏舎 500 豚舎 500 馬舎 700	10 5 1 10	700 100 500 70	8,700
3	豚舎 10,000（才2年のものを改築） 牛舎 1,500 馬舎 1,500	20 10 10	500 150 150	12,500
4	ナシ			—
5	牛舎 1,500	10	150	1,500
6	住宅 40,000（才1年のものを改築）	20	2,000	35,000
7	鶏舎 1,500（才2年のものを改築）	10	150	1,000
8 9 10 11	ナシ			—
12	倉庫 20,000（才2年のものを改築） 馬舎 1,000（〃）	20 10	1,000 100	13,300
13	舎 1,500（才3年のものを更新） 馬舎 1,500（〃）	10 10	150 150	—
	以下償却が終れば更新する。			

12. 農機具整備計画

年次	農具名及び価格		償却年数	年間償却額	新規投資額（償却積立を控除）
1	手農具	4,000円	毎年之を更新	円	円
	玉蜀黍脱粒機	6,000	10	600	25,000
	リヤカー	5,000	10	500	
	動力脱穀機（10戸共用）	10,000（100,000円の1/10）	10	1,000	
2	荷車	10,000	10	1,000	10,000
3	ナシ				
4					
5	発動機	25,000	10	2,500	31,000
	油搾脱穀機	6,000	10	600	
6	牛犁	1,700	10	170	13,200
	爪（針）ハロー	2,500	10	250	
	円盤ハロー	8,000	10	800	
	カルチベーター	1,000	10	100	
7	ナシ				
8					
9					
10					
11年以降	順次更新				

13. 農業粗収入

(1) 年次別

区分	1	2	3	4	5	6
マイス	12,300	10,950	8,550	7,500	6,750	6,750
綿	—	8,250	8,250	5,500	5,500	5,500
豆	6,600	4,400	4,400	8,800	8,800	8,800
落花生	—	—	—	6,400	6,400	6,400
マンジョカ	—	3,500	4,000	19,000	12,000	12,000
玉葱	—	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500
小麦	—	13,800	23,600	23,600	23,600	23,600
馬鈴薯	—	—	—	—	20,000	20,000
油桐	—	—	—	—	330	2,360
マテ茶	—	—	—	—	—	—
計	18,900	48,400	56,300	78,300	90,880	92,910

(2) 年次別

卵	—	—	750	3,000	4,500	6,000
豚肉	—	—	—	7,200	14,400	18,000
仔牛	—	—	—	—	—	—
計	—	—	750	10,200	18,900	24,000

(3) 年次別

総計	18,900	108,400	57,050	88,500	109,780	116,910

耕種収入

(単位弗)

7	8	9	10	11	12	13	14
7,050	—	—	—	—	—	—	—
5,500	5,500	—	—	—	—	—	—
8,800	8,800	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400
6,400	6,400	6,400	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200
12,000	10,000	10,000	—	—	—	—	—
7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500
23,600	23,600	23,600	18,700	9,000	9,000	9,000	9,000
20,000	20,000	20,000	15,000	40,000	40,000	40,000	40,000
8,750	21,400	35,800	50,500	60,500	67,500	67,500	67,500
20,000	28,000	54,000	68,000	84,000	94,000	97,000	100,000
119,600	131,200	161,700	167,300	208,600	225,600	228,600	231,600

畜産収入

7,500	9,000						9,000
38,000	36,000	以下同じ					38,000
—	2,000						2,000
43,500	47,000						47,000

総農業粗収入

163,100	178,200	208,700	214,300	255,600	272,600	275,600	278,600

14 農業経営費　　(単位 円)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種苗費	3,000	3,000	3,000	3,000	1,000	1,000	1,000	500	500	500	500	500
薬剤費	500	500	500	500	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
小農具費	—	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
諸材料費	1,400	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800
発電機用燃料	500	1,000	1,000	1,000	1,000	1,500	1,500	1,500	2,500	2,500	4,000	4,000
家畜費	120	420	970	1,400	1,700	1,800	1,800	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900
伐木費及び人夫費	10,000	6,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
建物修理費	400	840	1,500	1,500	1,500	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	4,000
農機具修理費	2,500	3,500	3,500	3,500	6,600	7,920	7,920	7,920	7,920	7,920	7,920	7,920
小計	18,420	17,060	17,270	17,700	19,600	23,320	23,320	22,920	23,920	23,920	25,420	26,120
建物償却費	1,060	2,430	2,730	2,730	2,880	3,880	3,930	3,930	3,930	3,930	3,930	4,260
農機具償却費	2,100	3,100	3,100	3,100	6,200	7,520	7,520	7,520	7,520	7,520	7,520	7,520
総計	21,580	22,590	23,100	23,530	28,680	34,720	34,770	34,370	35,370	35,370	36,870	37,900

以下同じ

農業経営費内訳

1 種苗費　オ1年乃至オ4年の各年度の種苗費を各3,000円とし，オ5年乃至オ7年を1,000円とし，オ8年以降は野菜種子だけとなるから各500円とする．

2 薬剤費　繭，玉茜，野菜，馬鈴薯，果樹等に要するもので，オ1年～オ3年は各500円ずつ，それ以降は各1,000円ずつを計上するものとする．

3 小農具費　オ1年度購入の4,000円は固定資本に計上して経営費には計上せず，オ2年以降更新の分額各1,000円を計上する．

4. 諸材料費　麻袋（一枚単価15円）はオ1年目60枚を，オ2年以降は毎年20枚ずつを購入するものとする．その他の材料費として毎年500円を加算する．

5. 発動機用燃料費　オ1年目は500円を，小麦生産の入るオ2年目以降は1,000円を，更に油桐の生産増加に伴い，オ6年～オ8年は1,500円を，オ9，オ10年は2,500円を，オ11年以降は4,000円を計上するものとする．

6. 家畜費　家畜関係費は家畜見積評価額の約5%の金額を防疫等諸経費として計上，次表により計算した．

年次	評価額 円					家畜費 円	
	鶏	豚	馬	牛	計		
1	500	2,000	-	-	2,500	120	
2	1,500	4,000	3,000	-	8,500	420	
3	3,000	6,000	7,000	3,500	19,500	970	
4	3,500	11,000	9,000	4,000	27,500	1,400	オ9年以降は
5	3,500	15,000	9,000	5,500	33,000	1,700	オ8年に同じ
6	3,500	15,000	9,000	7,500	35,000	1,800	
7	3,500	15,000	9,000	8,000	35,500	1,800	
8	3,500	15,000	9,000	9,500	37,000	1,900	

7. 伐木費及び人夫賃

ha当りの伐木費は2,000円で，オ1年目の5haと，オ2年目の3haは人夫を傭い（請負に出す），オ3年目以降は自ら伐木するが，年間延50人の人夫（日給100円）を雇うものとして計算する．

8. 建物及び農機具の修理費並びにそれらの償却費は次表の表から算出する．

区分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
建物	現有建物の新調価格累計	8,000	16,700	29,200	29,200	30,700	65,700	66,700	66,700	66,700	66,700	66,700	80,000	
	修理費（新調価格の5%）	400	840	1,500	1,500	1,500	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	4,000	
	年間償却額 1年のもの	-	500	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	年間償却額 5年のもの	1,000	1,100	1,100	1,100	1,100	100							
	年間償却額 10年のもの	-	770	1,070	1,070	1,220	1,220	1,370	1,370	1,370	1,370	1,370	700	
	年間償却額 20年のもの	-	-	500	500	500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	3,500	
	年間償却額 50年のもの	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	
	年間償却額 累計	1,060	2,430	2,730	2,730	2,880	3,880	3,930	3,930	3,930	3,930	3,930	4,260	以下同じ
農機具	現有農機具の新調価格累計	25,000	35,000	35,000	35,000	66,000	79,200	79,200	79,200	79,200	79,200			
	修理費（新調価格の10%）	2,500	3,500	3,500	3,500	6,600	7,920	7,920	7,920	7,920	7,700			
	年間積立額累計	2,100	3,100	3,100	3,100	6,200	7,520	7,520	7,520	7,520	7,520	以下同じ		

15. 収支バランス・所要資金

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
収支バランス	農業粗収入	A	18,900	48,400	57,050	88,500	109,780	116,910	163,100	178,200	208,700	214,300	255,600	272,600	275,600	278,600
	農業経営費	B	21,580	22,590	23,100	23,530	28,680	34,720	34,770	34,370	35,370	35,370	36,870	37,900	37,900	37,900
	農業所得	C=A-B	-2,680	25,810	33,950	64,970	81,100	82,190	128,330	143,830	173,330	178,930	218,730	234,700	237,700	240,700
	生計費	D	24,000	24,000	30,000	40,000	50,000	50,000	60,000	70,000	75,000	75,000	80,000	80,000	80,000	80,000
	農家経済余剰（但し資本回収を行っていない）	E=C-D	-26,680	1,810	3,950	24,970	31,100	32,190	68,330	73,830	98,330	103,930	138,730	154,700	157,700	160,700
所要資本	固定資本 建物		8,000	8,700	12,500	-	1,500	35,000	1,000	-	-	-	-	13,300	-	-
	固定資本 農機具		25,000	10,000	-	-	31,000	13,200	-	-	-	-	-	-	-	-
	固定資本 家畜		2,500	3,000	7,500	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	固定資本 小計	G	35,500	21,700	20,000	-	32,500	48,200	1,000	-	-	-	-	13,300	-	-
	流動資本固定額		26,680	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	合計	H	62,180	21,700	20,000	-	32,500	48,200	1,000	-	-	-	-	13,300	-	-
残耗償償還額（元金16万円）		F	8,800	8,800	8,800	8,800	25,260	25,260	25,260	25,260	25,260	25,260	25,260	25,260	-	-
収支の差額から資本化する額（E－F）			-	-	-	16,170	5,840	6,930	43,070	48,570	73,070	78,670	113,470	129,440	157,700	160,700

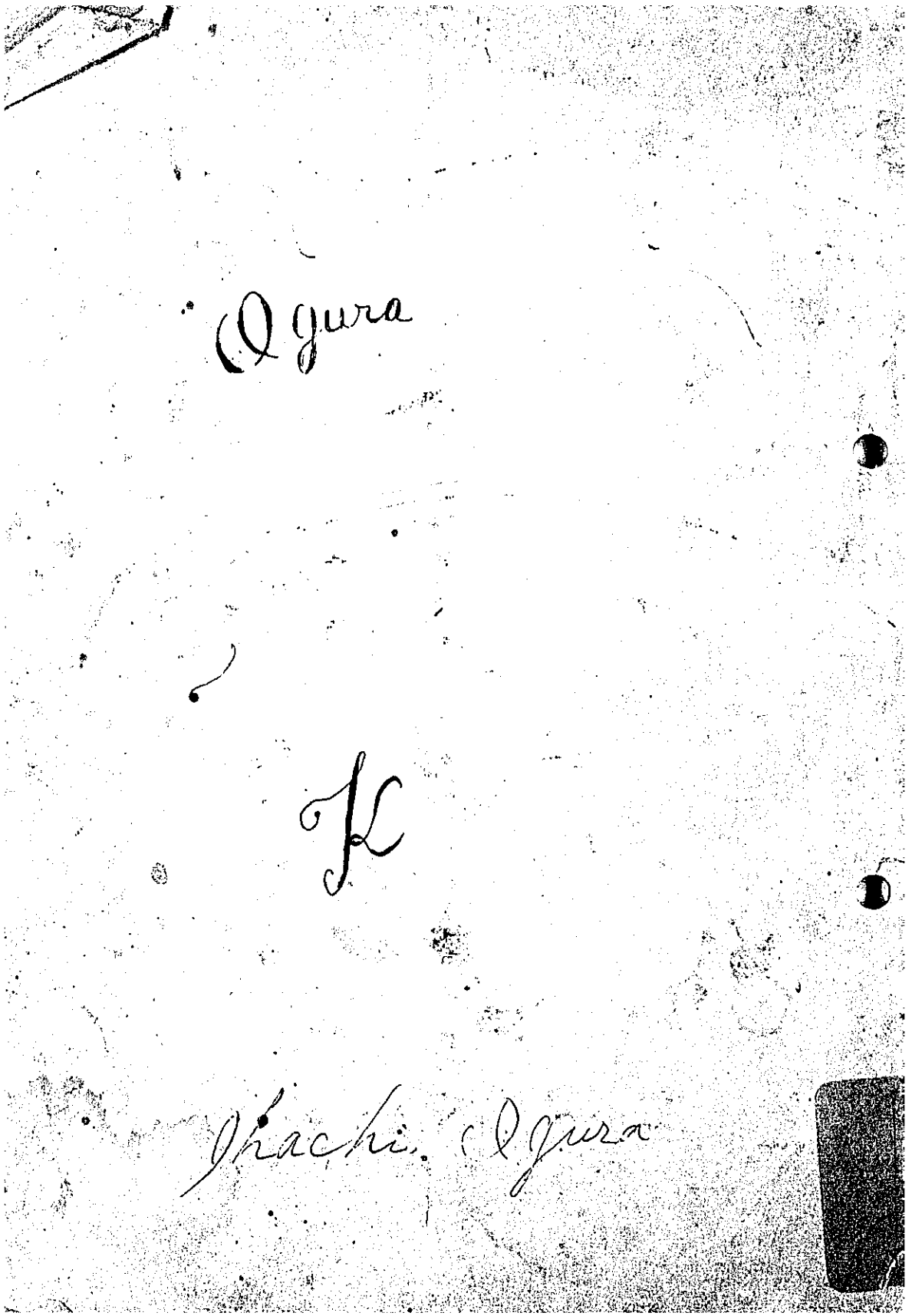
附注 (1) 本オ1５表のEとGを併せ見るとき，オ1年からオ６年まではその年の収支の差額（資本回収を行わない農家経済余剰）からは所要投下資本額は得られないことがわかる。その外にBとDは年度の始めから，実際の収入の入る（主として年度末）時期までの間に必要なのであって，相当部分は年度当初に必要なのである。

(2) 従つて，パラグアイに対する移住政策の新なる発展のために，次の如き措置が必要である。

a) 渡航費の据置期間は，８乃至１０年としその期間中の利子は無利子とする。償還の時期はその代り１１年目から１４年目の４年間に回収できる。

b) 移住振興会社の土地代回収はオ７年，オ８年，オ９年の３ヶ年とすること。

c) 移住振興会社は，移住者の営農の拡大再生産に向つて発展するため，入植後３ヶ年分の固定資本整備のため各戸100,000瓦（オ1５表Hの最初３年間分計）を融資すること。同時に油桐搾油工場及びマテ茶調整工場を建設すること。入植者各戸はオ1年目の農業経営費B及び生計費Dの合計額 50,000瓦は必ず携行のこと。


Ojura
K
Prachi. Ojura